

# 碩心

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可  
神奈川 碩心 会 発行

10年 9月現在 会員数  
逗子地区 132名  
葉山地区 203名  
大船地区 33名  
(合 計 368名)

10年 9月 (314号)  
発行者 千 岳 関  
編集者 白 井 岳 麗  
印刷所 (有) 片 桐 印 刷  
電話 0468 (78) 7993

## 行事予定

○葉山町文化祭オープニングセレモニー  
日 時・10月31日(土) 午後1時より  
会 場・葉山町文化会館大ホール

○葉山町文化祭・詩吟詩舞民謡発表会  
日 時・11月1日(日) 10時より  
会 場・葉山町文化会館大ホール

○逗子市文化祭・詩吟詩舞発表会  
日 時・11月1日(日)  
会 場・図書館ホール

○鎌倉市詩吟詩舞連盟 (碩心会出吟)  
日 時・11月7日(土) 10時半より  
会 場・鎌倉芸術館小ホール

○県本部高段者吟法講座  
日 時・11月22日(日)  
会 場・平塚農業会館

冠称 (10年7月1日付)

宗 佑 竹石 岳 泓  
おめでとうございます。

神奈川県本部

## 夏期指導者吟道講座に参加して

上 村 象 岳

本年度第一回講座の8月9日に引き続き、8月16日の第二回も聴講させて頂き、講師の先生方の熱心な講義に大層感銘を受けてまいりました。

毎年この時期に、総本部の夏期講座と並び夏休み中の楽しみの一つとなっております。全員での合吟に、いつも喉をヒューヒューさせながら精一杯の声を張り上げて、充実した一日を過ごさせて頂いております。

特にこの講座における内容は「井の中の蛙」の私にとって、外部とのつながりとなる貴重な機会であり、吟法、吟符の読み方、詩文の背景と作者の気持も伝わり、大変な勉強になりました。

我が碩心会より加藤岳相先生、加藤岳洵先生の講義があり、私達碩心会々員にとって、誇りに感じて、大いに満足した夏期講座でありました。

## 碩心会常任理事会開かれる

指導者講習会内規について

8月17日、六代御前社務所に於て午後7時より常任理事会が開かれました。全員出席にて碩心会指導者講習会内規(案)を千葉会長先生の説明のもと、質疑応答を熱心に繰り返しました。時間も過ぎあとは教務部にまともていただくことにして解散いたしました。

## 指導者吟道講座(準師範位)を受けて

一色 小菅 幸岳

立秋を過ぎた8月9日(旧川崎の「エポックなかはら」で、午前10時10分から午後4時20分まで、正味5時間の講座が開催され、碩心会からは、対象者24名のうち20名が出席しました。当日は比較的涼しい日でしたが、9時30分の受付までに入り口は長蛇の列ができ、蒸し暑くさえ感じました。

神奈川県本部詩の合吟、立平岳昇県本部長の挨拶、教務部長の挨拶、講師紹介の後、漢詩、和歌、新体詩等の講義に入りました。

5人の先生方の指導方法は特徴がありましたが、指導内容にはいくつかの共通点がみら

れます。

(1) 作者紹介(生い立ちから死亡まで)

(2) 詩が作られた当時の時代背景

(3) 語句の解釈

(4) 素読

(5) 合吟(男女一緒、男女別々)

参加した人たちが、準師範以上の人ということもあって、指導者の熱心さはさることながら、受講者の意気込みがひしひしと伝わってきました。会場は熱気に包まれ、一時間づつの講座がとても短くさえ感じられました。

碩心会から二人の先生が講師として壇上にたたれ、あらためて素晴らしい先生のもとで学んでいる幸せを感じます。

日頃から心に止めていることですが、素読の大切さ、アクセントの大切さを、再度心して勉強する必要を感じました。年に一回の講座ですが、出席することによって多くの事を学ぶと共に、基本を大切に日々努力することの必要を感じています。

会場を出て、かなり高齢の人もみえていたことに気が付き、「学ぶことに年齢など関係ない。先輩の先生方の年まで頑張らなければいけない。」と心に誓い帰途につきました。

## 碩心会夏期吟道講習会

堀内F 斉藤和岳

梅雨も明けきらぬ中、去る7月11日逗子図書館ホールに於て碩心会の第一回夏期吟道講習会に出席させていただき有意義な一日を過ごすことが出来ましたことを感謝してお礼申し上げます。不順な日の続くところ蒸し暑さも少しやわらぎ天候にも恵まれ、大層多勢の方々を受講されました。

講師の先生方の紹介と、会長千葉岳関先生のご挨拶があり6名の講師の先生が一人50分の持時間を、先ず千葉先生の「新体詩秋風の歌、村田先生漢詩二題、鈴木先生和歌二首、中村先生漢詩、加藤岳洵先生漢詩」と和歌、加藤岳相先生漢詩と約5時間という長い時間を皆さん熱心に受講されて無事終了。

御指導下さいました先生方に厚くお礼申し上げます。次の講習会が企画されることを心より期待しております。



第23回横須賀第二地区

吟道大会開かれる

佐久間 爽 岳

秋風の立つ朝を迎えた9月6日、横須賀のはまゆう会館に於て第二地区大会が開かれた。平木岳栄副会長の開会の辞に始まり、それぞれの会から出吟が続く。

11時過ぎから式典が行なわれ、立平岳昇県本部長は「元気で仲良く、楽しく詩吟を続けて貰いたい。県本部45周年大会を平成11年に行なう予定のため、次の第24回は西暦二千年に開かれることになった」と挨拶された。

佐藤岳統先生は「吟技と人格の向上を目指して二千年に向かいます」と総本部長谷川理事長の代理として出席される。

高齢者の表彰では碩心会から9名の方が表彰され、その代表として村田岳澗先生が壇上に立たれた時、颯爽としたお姿に会場からどよめき起きた。

式典のあと立休吟の詩舞が発表されて、いづれも華麗な舞台であった。

連吟コンクールは12組が出場予定のところ11組が出吟する。熱吟に続く熱吟で会場は水

を打ったように聞き入り、各組にそれぞれ盛大な拍手が贈られた。碩心会から次の二組が入賞する。

コンクールについて、鹿島岳久委員長から次のような講評があった。三人の声の質が揃うこと。声量が同じように聞こえること。詩文の表現力があること。言葉のアクセントには充分留意するようにと説明された。

県本部と総本部の先生方、また大会役員の方の先生の模範吟に聞き入って大会を終了する。大会のための準備に始まり、また当日は早朝より活躍された役員の方々、誠にありがとうございました。

連吟コンクール入賞

第三位入賞

川口 喜美子  
大楠 公 鈴木 洋子

奥野 敏子

第四位入賞

行谷 正一  
本能 寺 福本 辰男

広瀬 春雄

高齢者表彰を受けて

村田 岳澗

「八十才をお祝いして」とあちらこちらから敬老の御案内をいただき、改めて八十才なんだと思ひ知らされ、自覚しなければと思っております。

私達の年代は戦前、戦中、戦後と日本が大変な時代を生き抜いて、今の平和な社会に貢献してきたと思います。若い方達がこの平和をいつまでも続けて頂きたいと願っています。漢詩も今の若い方にはあまりなじみがなく、詩吟人口も高齢化しています。

私達が漢詩のすばらしさ、詩の心をいかに表現し人に感動を与える事が出来るのかを勉強して、若い方達を魅了する様な吟を勉強したいものと思っております。

今後ともよろしく御指導下さい。

八十の段を登りてふりかえる

一期一会のありがたき日々



### 森山神社例大祭に和歌献詠の儀

去る8月30日、葉山町一色の森山神社に於て、神様に捧げる歌の朗詠を頑心会の有志により九首、奉納いたしました。

「この良き日もろ人こそぞり賑わけく

寿ぎ仰ぐ森山の神」

この歌の作者は、守谷岳瑠さんです。守屋宮司(町長)のもとに行なわれる献詠の儀は、今後例祭の行事として決定いたしました。

### 俳句

寺脇 宇岳

栗御飯幼な子弾み帰りくる

秋明菊朝のひかりの水を遣る

石黒 恵風

空高し草原に立つ吾亦紅

野仏の裾の廻りの彼岸花

斉須 淳山

熱気球湿原の秋一望す

蜘蛛の罫に朝露光る遊歩道

上野 マサミ

竹の春枝にさざめく日の光り

暁の布団引きよす秋の宿

### 短歌

長島 玉岳

才あらば五線に書きて残したし

夜毎奏づる秋虫の声

折り折りに庭に咲きつぐ花々は

勤めある身の娘が養なへり

### もみじは何故赤い？

もみじの赤ほど秋を感じさせるものはありません。何故赤くなるのでしょうか。

それは、今までもみじの木や葉に養分を送っていた緑のクロロフィルの活動が、秋になると低下するのです。

もともと、もみじの葉は赤いのです。その葉をおおっていた緑の養分が送れなくなるとの赤に戻っただけなのです。

しかし赤さが表面に出たとき、その赤いもみじは枯れてゆき、赤い葉の部分から切れ、落葉となって土に還ります。

それは自然の理といえるでしょう。いわば見事な赤色は、枯れつきる前の最後の輝きです。

百科辞典より

### 入会

497 藤井宜夫 茅ヶ崎市東海岸南四一八一十八

498 藤井正子 " " "

(松和) 〇四六七一八三一二二二

499 角田一男 葉山町一色一六六四

(堀内B) 〇四六八一七五一一四六九

退会 小田桐妙子(悠吟) 389 石川吉山(幸和)

266 行谷経風 (一色)

### 訂正

8月号 312 三壁照岳 銀詠を悠吟に訂正

### 編集後記

きびしい夏の暑さも終り、あちこちから祭太鼓がひびき、秋を肌で覚える良い季節のこの頃となりました。しかし息つく暇もなく、各地区文化祭その他の催しに向って、お元氣でお稽古に入っていられることと思います。私達広報部も、会長先生よりご指名のもと馴れない仕事によちよちと歩きながら四回目の編集を終りホツトしております。

毎月お寄せいただく原稿を楽しみに、部員は全員集合でまとめておりますが、「吟友との語らい」「お教室風景」等お寄せ下さい。お待ちしております。

広報部